第 183回
日本循環器学会東北地方会

プログラム

会　期：令和8年12月5日（土）午前8時20分より

会　場：コラッセふくしま　※第１会場のみ一部オンライン配信

（福島県福島市三河南町1-20　TEL：024-525-4089）

第1会場：4F　多目的ホールAB
第2会場：3F　企画展示室
第3会場：4F　401会議室
第4会場：5F　小研修室
審査会場：5F　特別会議室

会長　竹 石 恭 知

事務局：福島県立医科大学医学部　循環器内科学講座
福島県福島市光が丘１番地
TEL: 024(547)1190　FAX: 024(548)1821

○ **参加登録受付**　令和 8 年 11 月 5 日（木）～12 月 4 日（金）18 時まで
東北地方会ページから参加登録可能です。

○ **会費及び支払方法**　医師 / その他 3,000 円、メディカルスタッフ 1,000 円、学生・初期研修医 無料
参加登録および会費納入は、オンラインでのクレジット決済のみといたします。

○ **Web 視聴方法**　Web 視聴はウェビナー登録が必要となります。参加登録完了メールにウェビナー登録 URL が記載されますので、あわせてご登録をお願いいたします。

○ **単位付与**
＜学会研修　単位：5 単位＞
現地参加：当日現地会場の総合受付付近に設置しています「循環器専門医単位登録受付」より受付いたします。
Web参加：本会においてライブ配信視聴ログを確認後、単位取得条件を満たしている場合、2 週間を目処に単位が自動付与されます。
＜ 教育セッション　単位：3 単位＞
現地参加：第1会場前セッション開始30 分前より設置しています「教育セッション単位登録受付」より受付いたします。
Web参加：対象セッションを累計45 分以上視聴いただいた方にライブ配信視聴ログを確認後、2 週間を目処に単位が自動付与されます。

○ **演題について**

一般演題：発表時間 5 分、質疑応答 2 分
YIA（ライブ配信）及び学生・初期研修医 AWARD：発表時間 7 分、質疑応答 5 分

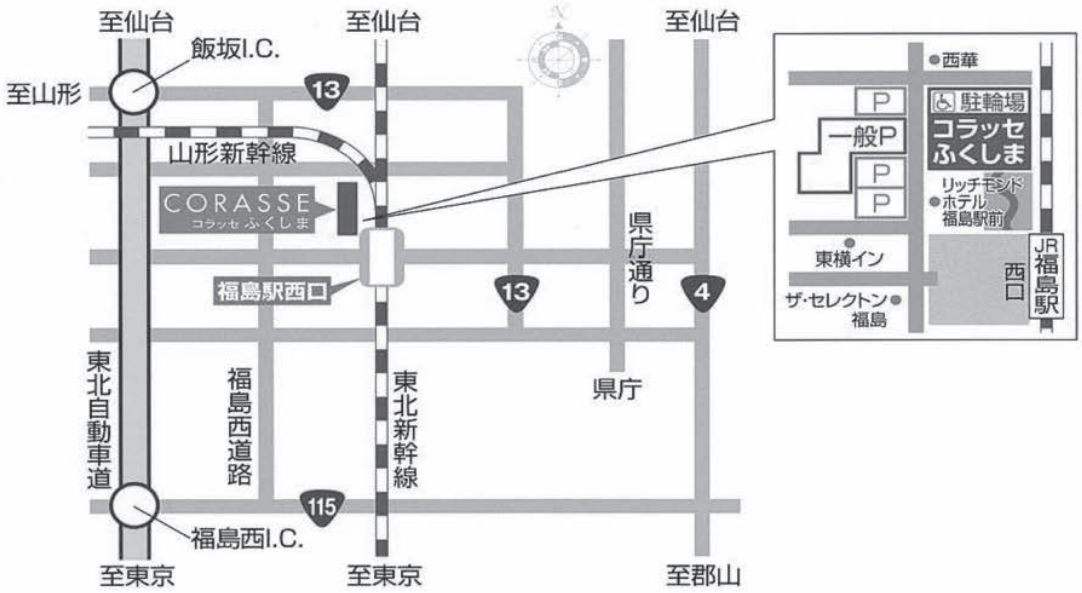
＊発表時間は手元の計時機器に表示され、発表時間残り 1 分前に黄色点灯、終了時に赤色点灯します。

・コンピュータープレゼンテーションによる発表のみとします。
・Windows 版 Power Point で作成して下さい。発表者ツールのご利用はできません。
・動画の使用は YIA と学生・初期研修医 AWARD でのみ可能です。
・発表 30 分前までに、作成したデータを USB メモリーにいれて PC 受付にお持ち下さい。
・データのファイル名には演題番号（半角）に続けて発表者の氏名（漢字）を必ず付けて下さい（例：08 福島太郎 .ppt）。
・不測の事態に備えて必ずバックアップデータをお持ち下さい。
・本会場内に託児施設を設置いたします。ご希望の方は東北支部 HP をご確認ください。

追記：学会案内状・プログラムは、原則として日本循環器学会会費納入者に限り発送いたします。

会場案内図

概略図

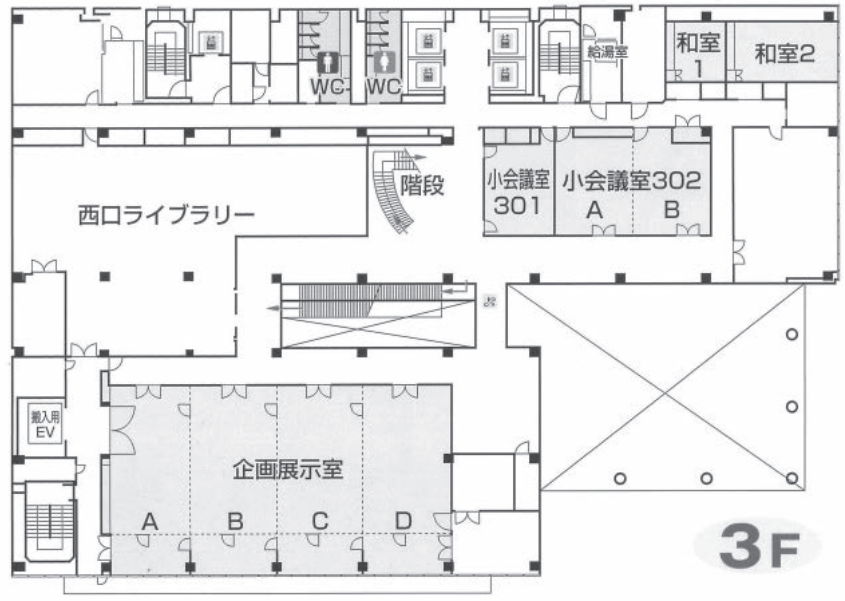


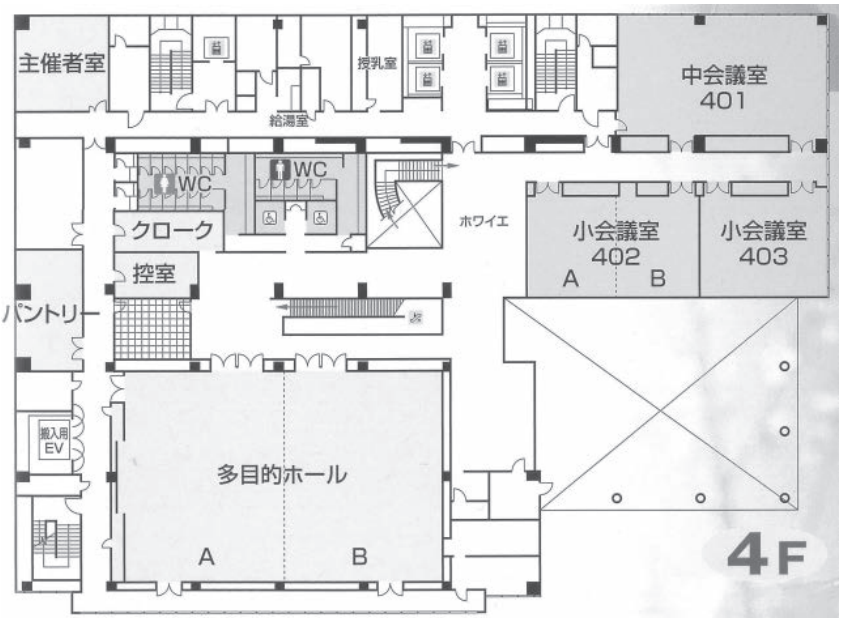
■福島駅西口から徒歩3分
■東北自動車道福島西I.C、飯坂I.Cから車で約15分
■駐車場（有料）の台数に限りありますので、ご来館の際はなるべく公共交通機関をご利用ください。

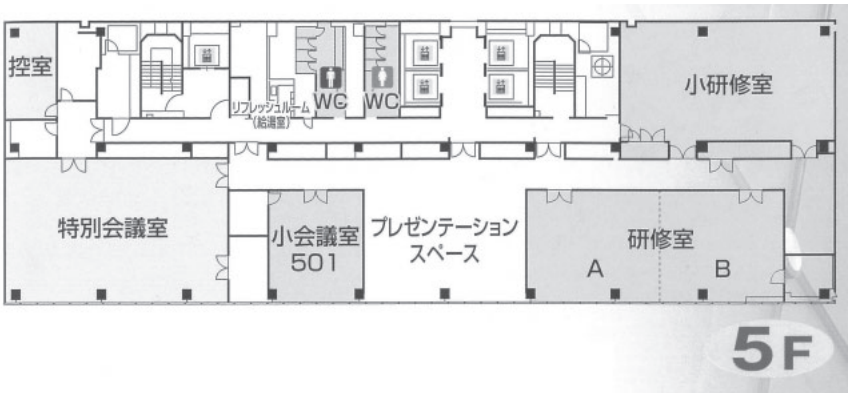
周辺詳細図



フロア案内図


WC
WC
給湯室
和室1
和室2
階段
小会議室301
小会議室302
A
B
西口ライブラリー
搬入用EV
企画展示室
A
B
C
D
3F


主催者室
授乳室
給湯室
中会議室401
WC
WC
ホワイエ
クローク
控室
小会議室402
A
B
小会議室403
パントリー
搬入用EV
多目的ホール
A
B
4F


控室
リフレッシュルーム（給湯室）
WC
WC
小研修室
特別会議室
小会議室501
プレゼンテーションスペース
研修室
A
B
5F

プログラム（敬称略）

	第１会場 4F 多目的ホールAB	第２会場 3F 企画展示室	第３会場 4F 401会議室	第４会場 5F 小研修室	審査会場 5F 特別会議室
8:00	8：00～ **受付開始**				
			8：20～9：00 **モーニングセミナー** 座長：富田 泰史 (弘前大学) 演者：重城 健太郎 (埼玉医科大学総合医療センター) 日本ベーリンガーインゲルハイム(株)	8：20～9：00 **モーニングセミナー** 座長：熊谷 浩司 (東北医科薬科大学) 演者：関口 治樹 (東京女子医科大学) 日本イーライリリー株式会社 / 田辺ファーマ株式会社	
9:00	8:55～ **開会あいさつ**				
	9：00～10：00 **YIA 症例発表部門** 座長：竹石 恭知 (福島県立医科大学)	9：00～10：00 **学生・初期研修医 AWARD 発表部門** 座長：石田 隆史 (福島県立医科大学)	9：05～9：40 **不整脈１** 座長：山田 慎哉 (福島県立医科大学) 座長：石田 祐司 (弘前大学)	9：05～9：40 **虚血性心疾患１** 座長：近江 晃樹 (日本海総合病院) 座長：朴澤 麻衣子 (岩手県立宮古病院)	9：30～10：00 **成人先天性心疾患部会**
10:00	10：00～11：00 **YIA 研究発表部門** 座長：竹石 恭知 (福島県立医科大学)	10：05～10：40 **心筋炎・その他** 座長：鈴木 秀明 (東北大学) 座長：那須 崇人 (岩手医科大学)	9：45～10：20 **不整脈２** 座長：橋本 直明 (山形大学) 座長：長谷部 雄飛 (東北医科薬科大学)	9：45～10：20 **心不全** 座長：和根崎 真大 (山形大学) 座長：佐藤 悠 (福島県立医科大学)	10：10～10：30 **学生・初期研修医 AWARD 審査会**
		10：45～11：13 **肺血栓症・その他** 座長：喜古 崇豊 (福島県立医科大学) 座長：澁谷 修司 (弘前大学)	10：25～11：00 **不整脈３・その他** 座長：伊藤 太平 (仙台循環器病センター) 座長：寺田 健 (秋田大学)	10：25～10：53 **炎症性疾患・その他** 座長：佐藤 彰彦 (福島県立医科大学) 座長：對馬 迪子 (弘前大学)	10：40～11：00 **心肺蘇生法普及委員会**
11:00	11：20～12：00 **学術セミナーⅠ** 座長：森野 禎浩 (岡村記念病院) 演者：多田 憲生 (仙台厚生病院) エドワーズライフサイエンス合同会社	11：20～12：00 **学術セミナーⅡ** 座長：中里 和彦 (福島県立医科大学) 演者：絹川 弘一郎 (富山大学) アストラゼネカ株式会社	11：10～12：00 **ダイバーシティフォーラム** 座長：齋藤 悠司 (山形大学) 座長：梅田 有理 (能代厚生医療センター) 演者：田村 雄一 (国際医療福祉大学)	11：00～12：00 **成人先天性心疾患セミナー** 座長：桃井 伸緒 (福島県立医科大学) 演者：山村 健一郎 (九州大学)	11：10～11：30 **YIA 審査会** 11：30～12：00 **支部役員会**
12:00					
	12：10～13：10 **ランチョンセミナー A** 座長　竹石 恭知 (福島県立医科大学) 演者　三浦 正暢 (岩手県立中央病院) 演者　遠藤 仁 (慶應義塾大学) アレクシオンファーマ合同会社	12：10～13：10 **ランチョンセミナー B** 座長：安田 聡 (東北大学) 演者：夜久 英憲 (国立循環器病研究センター) 株式会社ツムラ	12：10～13：10 **ランチョンセミナー C** 座長：渡辺 昌文 (山形大学) 演者：及川 雅啓 (福島県立医科大学) ブリストル・マイヤーズスクイブ株式会社	12：10～13：10 **ランチョンセミナー D** 座長：渡邊 博之 (秋田大学) 演者：和根先 真大 (山形大学) 演者：後岡 広太郎 (東北大学) Alnylam Japan 株式会社	
13:00	13：20～13：50 **支部評議員会** **YIA 表彰式** **学生・初期研修医 AWARD 表彰式**				
14:00	14：00～14：45 **教育セッション１** 座長：富田 泰史 (弘前大学) 演者：福島 賢慈 (福島県立医科大学)	14：00～14：35 **外科手術・その他** 座長：若松 大樹 (福島県立医科大学) 座長：齋藤 大樹 (岩手医科大学)	14：00～15：00 **心不全療養指導士連携セミナー** 座長：齋藤 修一 (大原綜合病院) 座長：東雲 紀子 (福島県立医科大学附属病院) 演者：安田 沙織(福島県立医科大学附属病院) 保田 彰(仙台厚生病院) 郡司 真美(総合南東北病院) 木村 珠美(仙台駅東クリニック)	14：00～14：35 **虚血性心疾患２・その他** 座長：尾上 紀子 (仙台医療センター) 座長：赤間 浄 (福島県立医科大学)	
15:00	14：45～15：30 **教育セッション２** 座長：竹石 恭知 (福島県立医科大学) 演者：多田 憲生 (仙台厚生病院)	14：40～15：15 **基礎研究** 座長：三阪 智史 (福島県立医科大学) 座長：大瀧 陽一郎 (山形大学)		14：40～15：22 **心筋症** 座長：小林 淳 (福島県立医科大学) 座長：熊谷 亜希子 (岩手医科大学)	
15:30	**閉会のあいさつ**				

YIA 症例発表部門（第 1 会場：4F 多目的ホール AB）　9：00 ～ 10：00

座長：**竹石　恭知**（福島県立医科大学　循環器内科学講座）

01　長期経皮的補助人工心臓管理からの離脱に成功した LMT 閉塞による急性心筋梗塞の一例

岩手県立中央病院　循環器内科
○今野　駿平、三浦　正暢、畠山　　梓、松坂　和美、荒沢　和也、古山　和樹、安達　　歩、照井　洋輔、加賀谷裕太、齊藤　大樹、近藤　正輝、遠藤　秀晃、中村　明浩

02　Impella 離脱困難な心原性ショックに対し電磁干渉下の緊急心房アブレーションが奏功した一例

弘前大学大学院医学研究科　循環器腎臓内科学講座
○濱浦　奨悟、木村　正臣、日山　芽維、外山　佑一、石田　祐司、佐々木真吾、富田　泰史

03　巨大冠動脈瘤および冠動脈肺動脈瘻を形成した Vieussens’ arterial ring の 1 例

秋田大学大学院医学系研究科　循環器内科学講座
○久米　翔弥、小野　優斗、富樫　彩季、阿部　　健、加藤　　宗、佐藤　和奏、佐藤　輝紀、寺田　　健、渡邊　博之

04　熊外傷による急性上肢虚血に対し cross-limb vascular shunt と血管内治療により救肢し得た一例

[1] 福島県立医科大学　循環器内科学講座、[2] 福島県立医科大学附属病院　救急医療学講座
○笠原　慎也[1]、清水　竹史[1]、渡部　　瞬[1]、武藤　雄紀[1]、赤間　　浄[1]、佐藤　彰彦[1]、中里　和彦[1]、伊関　　憲[2]、竹石　恭知[1]

05　難治性免疫関連有害事象心筋炎に対するアバタセプトの有効性を心筋生検とトロポニン T で評価し得た 1 例

東北大学病院　循環器内科
○田中　聖人、新井真理奈、則政　　颯、玉那覇茉由、佐藤　　遥、菊地　順裕、佐藤　大樹、山本　沙織、建部　俊介、矢尾板信裕、鈴木　秀明、後岡広太郎、杉村宏一郎、安田　　聡

YIA 研究発表部門（第 1 会場：4F 多目的ホール AB）　10：00 ～ 11：00

座長：**竹石　恭知**（福島県立医科大学　循環器内科学講座学）

06　TAVI 施行後の 5 年生存率と日本の一般人口との比較：暦年齢と患者の脆弱性の対比

[1] 岩手県立久慈病院　循環器内科、[2] 岩手医科大学付属病院　循環器内科
○大塚　明花[1]、二宮　　亮[2]、近藤　優希[2]、沼畑　　亘[2]、佐々木　健太[2]、二宮　　開[2]、
房崎　哲也[2]、森野　禎浩[2]

07　大規模ゲノム解析を用いた日本人一般集団におけるファブリー病関連 GLA バリアントの頻度解析

[1] 東北大学大学院　医学系研究科　循環器内科分野、
[2] 東北大学　東北メディカル・メガバンク機構　個別化予防・疫学分野
○薄田　　海[1]、後岡広太郎[1]、鈴木　秀明[1]、山本　沙織[1]、寶澤　　篤[2]、安田　　聡[1]

08　血漿プロテオミクスを用いた肺動脈性肺高血圧症の病態解明

[1] 福島県立医科大学　循環器内科学講座、[2] 福島県立医科大学　地域先端循環器病治療学講座、
[3] 福島県立医科大学　保健科学部 臨床検査学科
○上田　捷太[1]、横川　哲朗[1,2]、大河内　諭[1]、小河原　崚[1]、喜古　崇豊[1]、三浦　俊輔[1]、
佐藤　彰彦[1]、清水　竹史[1]、三阪　智史[1]、及川　雅啓[1]、義久　精臣[3]、小林　　淳[1]、
中里　和彦[1]、石田　隆史[1]、竹石　恭知[1]

09　慢性冠症候群において高度石灰化病変は微少心筋障害を呈し予後不良と関連する

山形大学医学部附属病院　第一内科
○大野　紘枝、大瀧陽一郎、水戸　琢章、志鎌　　拓、橋本　直明、和根崎真大、加藤　重彦、
田村　晴俊、有本　貴範、渡辺　昌文

10　新規冠動脈病変に対する DCB を用いたステントレス PCI の治療成績
―ACS および大血管病変を含む単施設解析―

弘前大学大学院医学研究科　循環器腎臓内科学講座
○鹿内　　駿、齋藤　数正、山﨑　　堅、對馬　迪子、妹尾麻衣子、成田　憲紀、市川　博章、
澁谷　修司、花田　賢二、横山　公章、富田　泰史

学生・初期研修医 AWARD 発表部門（第 2 会場：3F 企画展示室） 9：00 ～ 10：00

座長：**石田　隆史**（福島県立医科大学　循環器内科学講座）

11　乳癌による肺腫瘍血栓性微小血管症 (PTTM) の一例

米沢市立病院　循環器科
○寒川　多瑛、横山　美雪、小山　響子、上北　洋徳

12　慢性血栓塞栓性肺高血圧症の原因検索を契機に診断された自己免疫性胃炎による高ホモシステイン血症の 1 例

[1] 公益財団法人　星総合病院　初期臨床研修医、[2] 公益財団法人　星総合病院　循環器内科
○佐藤　寿彦[1]、安齋　文弥[2]、猪俣　佳幸[2]、芳賀　文香[2]、磯松　大介[2]、市村　祥平[2]、
國分　知樹[2]、坂本　圭司[2]、越田　亮司[2]、木島　幹博[2]

13　膵性胸水と限局性血性心膜液を合併し、心タンポナーデに至った慢性膵炎の一例

[1] 秋田赤十字病院　臨床研修センター、[2] 秋田赤十字病院　循環器内科
○田澤　　諒[1]、小武海雄介[2]、長沼雄二郎[2]、岩谷　真人[2]

14　心原性ショックを呈したシェーグレン症候群関連心筋炎による重症心不全の一例

竹田綜合病院
○渡邉　幹夫、佐久間真悠、五十嵐盛滉、西野　笙汰、佐藤勇太朗、鈴木　　聡

15　経皮的補助人工心臓装着下で心臓移植申請を行った拡張型心筋症の一例：Time-limited trial の課題を考える

[1] 岩手県立中央病院　循環器内科、[2] 岩手県立中央病院　心臓血管外科
○本田　　慧[1]、三浦　正暢[1]、今野　駿平[1]、畠山　　梓[1]、松坂　和美[1]、荒沢　和也[1]、
古山　和樹[1]、安達　　歩[1]、照井　洋輔[1]、加賀谷裕太[1]、齊藤　大樹[1]、近藤　正輝[1]、
遠藤　秀晃[1]、中村　明浩[1]、武富　龍一[2]、板垣　皓大[2]、髙橋　　誠[2]、片平晋太郎[2]、
小田　克彦[2]

基礎研究（第２会場：３F 企画展示室）　14：40 ～ 15：15

座長：**三阪　智史**（福島県立医科大学　循環器内科学講座）
大瀧陽一郎（山形大学医学部　内科学第一講座）

16　肺動脈性肺高血圧症の病態形成におけるβ-アレスチン１の役割

[1] 弘前大学大学院医学研究科　循環器腎臓内科学講座、[2] 弘前脳卒中・リハビリテーションセンター
○目時　美雪[1]、花田　賢二[1]、安藤　桃子[1]、中村　宙哉[1]、岩間　拓史[1]、加藤　和史[2]、
三浦　尚武[2]、富田　泰史[1]

17　マクロファージ細胞外トラップは、心臓リモデリングを促進する

[1] 福島県立医科大学　循環器内科学講座、[2] 福島県立医科大学　地域心不全連携医学講座、
[3] 福島県立医科大学　地域先端循環器病治療学講座
○大和田光司[1]、三阪　智史[1,2]、市村　祥平[1]、草野　亮太[1]、大河内　諭[1]、小河原　崚[1]、
三浦　俊輔[1]、横川　哲朗[1,3]、及川　雅啓[1]、中里　和彦[1]、石田　隆史[1]、竹石　恭知[1]

18　下肢動脈疾患における中膜石灰化と内膜プラークの関係：病理学的解析

[1] 秋田大学医学部附属病院　循環器内科、[2] 東海大学　循環器内科
○加藤　　宗[1]、鳥居　　翔[2]、小野　優斗[1]、三浦　　健[1]、渡邊　博之[1]

19　一般住民におけるフィブリノゲンと死亡リスクの解析

山形大学　第一内科
○椛澤　大輝、大滝陽一郎、北川　　凜、釋　　愛実、和根崎真大、加藤　重彦、田村　晴俊、
有本　貴範、渡辺　昌文、須貝　孝幸、橋本　直明

20　慢性心不全患者における大脳白質病変の進展に関与する液性因子の探索

[1] 東北大学大学院医学系研究科　循環器内科学分野、
[2] 量子医科学研究所　分子イメージング診断治療研究部、[3] 東北メディカル・メガバンク機構、
[4] 東北大学加齢医学研究所　統合生理学分野、[5] 理化学研究所　生命医科学研究センター、
[6] 東北大学大学院医学系研究科　眼科学分野
○武内　広樹[1]、鈴木　秀明[1]、住吉　　晃[2]、黒澤　　亮[3]、菅野　　愛[1]、漆畑　拓弥[4]、
新井真理奈[1]、後岡広太郎[1]、伊藤　　薫[5]、佐藤亜希子[4]、中澤　　徹[6]、安田　　聡[1]

虚血性心疾患 1（第 4 会場：5F 小研修室） 9：05 ～ 9：40

座長：**近江　晃樹**（日本海総合病院　循環器内科）
朴澤麻衣子（岩手県立宮古病院　循環器内科）

21　心室細動蘇生後患者における冠攣縮評価が薬物療法選択の一助となった 3 例

[1] 国立病院機構仙台医療センター　臨床研修部、[2] 国立病院機構仙台医療センター　循環器内科
○小野　　克[1]、小山あずさ[2]、江口久美子[2]、小倉雄太郎[2]、三木　景太[2]、山口　展寛[2]、
福田　浩二[2]、尾上　紀子[2]

22　初期薬物療法に治療抵抗性の亜急性心筋梗塞による重症心不全の治療経験

岩手県立中央病院　循環器内科
○松坂　和美、三浦　正暢、畠山　　梓、今野　駿平、古山　和樹、荒沢　和也、安達　　歩、
照井　洋輔、加賀谷裕太、齊藤　大樹、近藤　正輝、遠藤　秀晃、中村　明浩

23　急性胆嚢炎を契機とした冠攣縮により ST 上昇型心筋梗塞に至った一例

山形大学医学部　内科学第一講座
○海藤　汐恩、渡部　　賢、須貝　孝幸、橋本　直明、和根崎真大、大瀧陽一郎、加藤　重彦、
田村　晴俊、有本　貴範、渡辺　昌文

24　血行再建治療に先行して抗凝固療法を施行しペースメーカ植込みを回避した SSS 合併亜急性心筋梗塞の一例

福島赤十字病院　循環器内科
○石橋　伸幸、池田　彩乃、和田　健斗、阪本　貴之、渡部　研一、大和田尊之

25　強力な脂質低下療法下で残存冠動脈 2 病変が対照的な経過を示した一例

弘前大学医学部附属病院　循環器腎臓内科学講座
○芦野　倭子、鹿内　　駿、齋藤　数正、山﨑　　堅、對馬　迪子、成田　憲紀、妹尾麻衣子、
市川　博章、澁谷　修司、花田　賢二、横山　公章、富田　泰史

虚血性心疾患２・その他（第４会場：5F 小研修室）　14：00 ～ 14：35

座長：**尾上　紀子**（仙台医療センター　循環器内科）
赤間　　浄（福島県立医科大学　循環器内科学講座）

26　頚髄損傷後に心室頻拍を認めた冠攣縮性狭心症の１例

福島県立医科大学　循環器内科学講座
○比留間　祐、喜古　崇豊、佐藤　洋太、坂本　和哉、佐藤　崇匡、及川　雅啓、小林　　淳、中里　和彦、石田　隆史、竹石　恭知

27　胸背部痛で発症した急性冠症候群の治療後に脊髄梗塞を診断した１例

東北医科薬科大学病院　循環器内科
○羽生　亘太、関口　祐子、市橋　克拓、黒柳　浩志、松田　航星、黒瀬　裕樹、長谷川　薫、菊田　　寿、長谷部雄飛、亀山　剛義、山家　　実、小丸　達也、熊谷　浩司

28　巨大子宮筋腫による高度貧血を伴う急性冠症候群に対しステントレス PCI と早期心不全治療を施行した一例

八戸市立市民病院　循環器内科
○相馬　宇伸、酒井峻太郎、遠藤　知秀、堀内　大輔、松井　宏光

29　高齢心不全患者に対する SGLT2 阻害薬の処方

公益財団法人 仙台市医療センター仙台オープン病院　循環器内科
○浪打　成人、砂村慎一郎、尾形　　剛、野田　一樹、瀧井　　暢

30　若年性治療抵抗性高血圧患者に腎デナベーションを施行した１例

[1] 山形県立中央病院　循環器内科、[2] 山形県立中央病院　糖尿病・内分泌内科
○福井　昭男[1]、大道寺飛雄馬[1]、鈴木　恵綾[2]、川口　彪人[1]、瑞木　優祐[1]、玉谷　紘悠[1]、立花　紳吾[1]、青野　智典[1]、會田　　敏[1]、長谷川　寛真[1]、高橋　克明[1]

心筋症（第 4 会場：5F 小研修室）　14：40 ～ 15：22

座長：**小林　　淳**（福島県立医科大学　循環器内科学講座）
熊谷亜希子（岩手医科大学医学部　内科学講座循環器内科学分野）

31　中マルベリー小体を契機に診断した女性 Fabry 病の一例

[1] 東北医科薬科大学　医学部医学科、[2] 東北医科薬科大学病院　循環器内科
○吉村　遥海[1]、黒柳　浩志[2]、市橋　克拓[2]、松田　航星[2]、黒瀬　裕樹[2]、長谷川　薫[2]、
長谷部雄飛[2]、菊田　　寿[2]、関口　祐子[2]、亀山　剛義[2]、山家　　実[2]、熊谷　浩司[2]

32　初回生検陰性から 9 年後の再生検で ATTR 心アミロイドーシスの診断に至った一例

公益財団法人宮城厚生協会 坂総合病院　循環器科
○小野寺聖司、渋谷　清貴、尾形　朔也、高田　正紀、福地　雄仁、平澤　　樹、望田　　幸、
濱田　一路、佐々木伸也、渡部　　潔、佐藤　匡也

33　左室収縮機能低下を呈し、感音難聴・神経筋症状・母系家族歴からミトコンドリア心筋症を疑った一例

[1] 公益財団法人　星総合病院　診療部、[2] 公益財団法人　星総合病院　循環器内科
○大内遥太朗[1]、國分　知樹[2]、磯松　大介[2]、猪股　佳幸[2]、芳賀　文香[2]、市村　祥平[2]、
安齋　文弥[2]、坂本　圭司[2]、越田　亮司[2]、三橋　武司[2]、渡辺　直彦[2]、木島　幹博[2]

34　ジゴキシン中毒を契機に診断に至った AL アミロイドーシスの一例

[1] 公益財団法人　星総合病院　初期臨床研修医、[2] 公益財団法人　星総合病院　循環器科
○島田　遼暁[1]、猪股　佳幸[2]、國分　知樹[2]、芳賀　文香[2]、磯松　大介[2]、市村　祥平[2]、
安齋　文弥[2]、越田　亮司[2]、渡辺　直彦[2]、木島　幹博[2]

35　症候性の閉塞性肥大型心筋症に対してマバカムテンを導入した一例

青森県立中央病院　循環器内科
○加藤　　朋、浅沼　千滉、北山　和敬、鈴木　晃子、舘山　俊太、櫛引　　基

36　心筋生検で診断後，PYP シンチ所見が経時的に変化した野生型 ATTR 心アミロイドーシスの一例

鶴岡市立荘内病院　循環器内科
○西村　英人、石垣　大輔、長島　義宜、佐藤　　匡

心筋炎・その他（第 2 会場：3F 企画展示室） 10：05 ～ 10：40

座長：**鈴木　秀明**（東北大学大学院医学系研究科　循環器内科学分野）
那須　崇人（岩手医科大学医学部　内科学講座循環器内科学分野）

37　経皮的左室補助装置により循環動態の早期改善を得た周産期心筋症の一例

秋田大学医学部附属病院　循環器内科
○畑中皓士郎、加藤　　宗、石井　啓吾、戸嶋　　優、青川　麻子、三浦　　健、貝森　亮太、
若木　富貴、佐藤　和奏、佐藤　輝紀、寺田　　健、渡邊　博之

38　難治性多形性心室頻拍を呈した急性心筋炎の一例

秋田大学医学部附属病院　循環器内科
○船木　理央、貝森　亮太、富樫　彩季、加藤　僚祐、小林　雄紀、渡邊　博之

39　免疫チェックポイント阻害薬併用療法後に心筋炎を発症した悪性黒色腫の一例

福島県立医科大学　循環器内科学講座
○杉原　正晃、赤間　　浄、渡部　　瞬、笠原　慎也、佐藤　　悠、佐藤　彰彦、三阪　智史、
金城　貴士、及川　雅啓、小林　　淳、中里　和彦、石田　隆史、竹石　恭知

40　ECPELLA 管理を要し異なる転帰を呈したリンパ球性劇症型心筋炎の 2 例

弘前大学大学院医学研究科　循環器腎臓内科学講座
○佐藤　菜津、齋藤　勝正、外山　佑一、山﨑　　堅、鹿内　　駿、對馬　迪子、成田　憲紀、
妹尾麻衣子、市川　博章、花田　賢二、澁谷　修司、横山　公章、富田　泰史

41　心筋炎後の洞結節・房室伝導障害と鑑別を要したアスリート心の 1 例

秋田大学医学部附属病院　循環器内科学講座
○渡邊　晃市、三浦　　健、高橋　知生、佐々木　琢、高橋　　潤、渡邊　博之

不整脈 1（第 3 会場：4F 401 会議室） 9：05 ～ 9：40

座長：**山田　慎哉**（福島県立医科大学　循環器内科学講座）
石田　祐司（弘前大学大学院医学研究科　循環器腎臓内科学講座）

42　micro電極が至適通電部位同定に有用であった右室流出路起源の心室期外収縮の 1 例

独立行政法人国立病院機構　仙台医療センター　循環器内科
○牟田　達紀、山口　展寛、小倉雄太郎、小山あずさ、江口久美子、三木　景太、福田　浩二、尾上　紀子

43　解剖学的に経静脈リードの留置が困難な症例に対しリードレスペースメーカー植え込みを施行した一例

一般財団法人 脳神経疾患研究所 附属 総合南東北病院　循環器内科
○松本　善幸、根橋　　健、宍戸奈美子、渡邊　俊介、永沼和香子、川村　敬一、大杉　　拓、小野　正博

44　挙児希望のある肥大型心筋症合併若年女性の心房細動・心房頻拍に対するアブレーションと内服治療戦略

秋田大学医学部附属病院　循環器内科
○加藤　僚祐、貝森　亮太、三浦　　健、富樫　彩季、渡邉　晃市、佐々木　琢、寺田　　健、渡邊　博之

45　陳旧性心筋梗塞後に頻発した VT/VF に対して瘢痕化組織に対するアブレーションが奏功した一例

太田西ノ内病院　循環器内科
○五十嵐菜央、入江　友梨、天海　一明、安藤　卓也、金澤　晃子、石田　悟朗、神山　美之、八巻　尚洋

46　パルスフィールドアブレーションによる肺静脈隔離後の遠隔期に上大静脈を起源とする心房頻拍を認めた 1 例

弘前大学大学院医学研究科　循環器腎臓内科学講座
○日山　芽維、木村　正臣、外山　佑一、濱浦　奨悟、石田　祐司、佐々木真吾、富田　泰史

不整脈 2（第 3 会場：4F 401 会議室） 9：45 ～ 10：20

座長：**橋本　直明**（山形大学医学部　内科学第一講座）
長谷部雄飛（東北医科薬科大学　循環器内科）

47　肺静脈隔離に右中肺静脈遠位部への追加通電を要した部分肺静脈還流異常合併心房細動の 1 例

弘前大学大学院医学研究科　循環器腎臓内科学講座
○田村　悠人、日山　芽維、濱浦　奨悟、外山　佑一、石田　祐司、木村　正臣、佐々木真吾、富田　泰史

48　洞不全症候群に対するリードレスペースメーカー（AVEIR-DR™）植込み後の予測電池寿命に関する解析

八戸市立市民病院　循環器内科
○堀内　大輔、松井　宏光、遠藤　知秀、酒井峻太郎、相馬　宇伸

49　皮下植込み型除細動器の植え込み後に新たにペーシング適応が生じリードレスペースメーカを追加した一例

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構　日本海総合病院　循環器内科
○加藤　悦久、小林　祐太、稲岡　　涼、前岡　佑汰、東海林弘太朗、山本　雄太、門脇　心平、禰津　俊介、菊地　彰洋、桐林　伸幸、近江　晃樹、菅原　重生

50　頻発するヒス束近傍心室期外収縮を呈した抗ミトコンドリア M2 抗体陽性筋炎関連心筋症の 1 例

東北医科薬科大学病院　循環器内科
○長谷部雄飛、黒柳　浩志、市橋　克拓、高田　正紀、松田　航星、黒瀬　裕樹、長谷川　薫、菊田　　寿、関口　祐子、亀山　剛義、山家　　実、熊谷　浩司

51　右房に広範な low voltage area および multiple focal AT をみとめた Basedow 病患者の一例

(一財) 太田綜合病院附属 太田西ノ内病院　循環器内科
○天海　一明、神山　美之、五十嵐菜央、入江　友梨、安藤　卓也、石田　悟朗、金澤　晃子、八巻　尚洋

不整脈３・その他（第３会場：4F 401 会議室）　10：25 ～ 11：00

座長：**伊藤　太平**（仙台循環器病センター　循環器内科）
寺田　　健（秋田大学大学院医学系研究科　循環器内科学）

52　心室細動と完全房室ブロックを合併し、集学的治療により房室伝導と心機能の回復を認めた悪性リンパ腫の一例

[1] 福島県立医科大学　循環器内科学講座、[2] 福島県立医科大学　心臓調律制御医学講座
○中野　康敬[1]、野寺　　稼[1]、上田　捷太[1]、草野　亮太[1]、室田　定洋[1]、山田　慎哉[1,2]、
金城　貴士[1]、竹石　恭知[1]

53　EV-ICD 植込み後の治療抵抗性心不全に対し CRT-D への移行を余儀なくされた不整脈原性心筋症の一例

弘前大学医学部附属病院　循環器腎臓内科
○大平　彩乃、石田　祐司、日山　芽維、濱浦　奨悟、外山　佑一、木村　正臣、佐々木真吾、
富田　泰史

54　単形性 NSVT を契機に ARVC の確定診断に至った若年男性の 1 例

東北大学病院　循環器内科
○隈部　将太、佐藤　宏行、米津　雄飛、山中　真一、伊藤　知宏、山本　惟彦、中野　　誠、
安田　　聡

55　意識消失発作と coved 型 Brugada 心電図を契機に植込み型ループレコーダーを植込み、てんかんと診断した一例

[1] 公益財団法人　星総合病院　診療部、[2] 公益財団法人　星総合病院　循環器内科
○三原　亮哉[1]、國分　知樹[2]、磯松　大介[2]、猪股　佳幸[2]、芳賀　文香[2]、市村　祥平[2]、
安齋　文弥[2]、坂本　圭司[2]、越田　亮司[2]、三橋　武司[2]、渡辺　直彦[2]、木島　幹博[2]

56　発症機序の異なる左室内血栓に対して抗凝固療法で加療した二例

[1] 能代厚生医療センター　循環器内科、[2] 秋田大学医学部付属病院　循環器内科学講座
○宮澤　幸一[1]、木村　州孝[1]、梅田　有里[1]、工藤　廣大[1]、加澤　隆康[1]、渡邊　博之[2]

外科手術・その他（第 2 会場：3F 企画展示室） 14：00 ～ 14：35

座長：**若松　大樹**（福島県立医科大学　心臓血管外科学講座）
齋藤　大樹（岩手医科大学医学部　心臓血管外科学講座）

57　診断に難渋した感染性腹部大動脈瘤を併発した感染性心内膜炎の一例

[1] 山形県立新庄病院　循環器内科、[2] 山形県立新庄病院　一般内科、
[3] 山形県立中央病院　心臓血管外科
○石井　　錬[1]、宮本　卓也[1]、菅沼　志穂[2]、大竹　悟史[3]、川原　　優[3]、奥山　英伸[1]、
永井　貴之[1]、結城　孝一[1]

58　出血性脳合併症を伴う若年者の感染性心内膜炎に対し早期手術を行い、生体弁を選択した 1 例

秋田大学医学部付属病院　循環器内科学講座
○香曽我部純奈、若木　富貴、富樫　　颯、畠山　葉月、阿部　　健、佐藤　和奏、佐藤　輝紀、
寺田　　健、渡邊　博之

59　無症候性右バルサルバ洞破裂に対し生体弁温存修復を行った 1 例

東北医科薬科大学病院　循環器内科
○黒柳　浩志、長谷部雄飛、市橋　克拓、松田　航星、黒瀬　裕樹、長谷川　薫、菊田　　寿、
関口　祐子、亀山　剛義、山家　　実、熊谷　浩司

60　成人期部分型房室中隔欠損症に対する左側房室弁形成術 ―5 例の経験―

岩手医科大学附属病院　心臓血管外科
○枝木　大治、小泉　淳一、正木　直樹、小城　雅貴、赤沼　利奈、塩屋　雅人、齋藤　大樹、
田林　　東、金　　一

61　右室低形成を伴う成人 Ebstein 奇形に対する one-and-a-half ventricular repair 後 22 年の遠隔期経過

[1] 宮城県立こども病院　心臓血管外科、[2] 東北大学病院　心臓血管外科、
[3] 東北大学病院　循環器内科
○松尾　諭志[1,2]、湯田健太郎[2]、山本　沙織[3]、建部　俊介[3]、齋木　佳克[2]

心不全（第 4 会場：5F 小研修室）　9：45 ～ 10：20

座長：**和根崎真大**（山形大学医学部　内科学第一講座）
佐藤　　悠（福島県立医科大学　循環器内科学講座）

62　冠動脈完全血行再建後も残存した労作時症状の原因を再考した一例

[1] 仙台市立病院　診療部、[2] 仙台市立病院　循環器内科
○吉町　文子[1]、池田　尚平[2]、佐藤　英二[2]、瀬戸　秋香[2]、柳澤　　直[2]、藤田　壱成[2]、
中潟　　寛[2]、青木　恒介[2]、山科　順裕[2]、宮下　武彦[2]、三引　義明[2]、石田　明彦[2]、
八木　哲夫[2]

63　地域医療を担う当院における心不全療養支援体制の構築と今後の展望

公立相馬総合病院
○内橋　友香、安藤　勝也、大橋　尚人、関根虎之介

64　心血管イベントの上流から介入する ―GLP-1 受容体作動薬を活用した当院の取り組み―

社会医療法人福島厚生会　福島第一病院　循環器内科
○星野　寧人、黒沢　雄太

65　外来心臓リハビリテーション前後の運動耐容能の変化と左室駆出率との関連

福島第一病院　循環器内科
○黒沢　雄太、星野　寧人

66　地域包括医療病棟における急性期循環器診療―『元の生活に戻す』ための当院の取り組み―

社会医療法人福島厚生会　福島第一病院　循環器内科
○星野　寧人、黒沢　雄太

炎症性疾患・その他（第 4 会場：5F 小研修室）　10：25 ～ 10：53

座長：**佐藤　彰彦**（福島県立医科大学　循環器内科学講座）
對馬　迪子（弘前大学大学院医学研究科　循環器腎臓内科学講座）

67　交通外傷後に遅発性・再発性心膜液貯留をきたした一例

[1] 仙台市立病院　診療部、[2] 仙台市立病院　循環器内科
○加賀　巧真[1]、池田　尚平[2]、柳澤　　直[2]、瀬戸　秋香[2]、藤田　壱成[2]、中潟　　寛[2]、
青木　恒介[2]、佐藤　英二[2]、山科　順裕[2]、宮下　武彦[2]、三引　義明[2]、石田　明彦[2]、
八木　哲夫[2]

68　IgG4 関連疾患による収縮性心膜炎に対し心外膜切除で確定診断した一例

[1] 一般財団法人脳神経疾患研究所 総合南東北病院　心臓血管外科、
[2] 一般財団法人脳神経疾患研究所 総合南東北病院　消化器内科
○海賀　俊征[1]、菅野　　恵[1]、新妻　　健[1]、福島　大造[2]、野村　千穂[1]、岡部　大輝[1]、
玉川　佳澄[1]、安次冨愛結[1]、三浦　朱莉[1]、植野　恭平[1]、緑川　博文[1]

69　下肢痛を契機に診断された亜急性感染性心内膜炎の一例

[1] 公益財団法人星総合病院　初期臨床研修医、[2] 公益財団法人星総合病院　循環器内科
○佐々木慎太郎[1]、市村　祥平[2]、猪股　佳幸[2]、芳賀　文香[2]、磯松　大介[2]、安齋　文弥[2]、
國分　知樹[2]、越田　亮司[2]、三橋　武司[2]、渡辺　直彦[2]、木島　幹博[2]

70　Lp(a) 高値と重症大動脈弁狭窄症の関連は加齢に伴い減弱する

東北医科薬科薬科大学病院　循環器内科
○市橋　克拓、亀山　剛義、黒柳　浩志、松田　航星、黒瀬　裕樹、長谷川　薫、菊田　　寿、
関口　祐子、長谷部雄飛、小丸　達也、熊谷　浩司

肺血栓症・その他（第２会場：３F 企画展示室）　10：45 ～ 11：13

座長：**喜古　崇豊**（福島県立医科大学　循環器内科学講座）
澁谷　修司（弘前大学大学院医学研究科　循環器腎臓内科学講座）

71　明らかな静脈圧排を伴わない子宮筋腫に合併した静脈血栓塞栓症の２例

仙台市立病院　循環器内科
○瀬戸　秋香、池田　尚平、柳澤　　直、藤田　壱成、中潟　　寛、青木　恒介、佐藤　英二、
山科　順裕、宮下　武彦、三引　義明、石田　明彦、八木　哲夫

72　Klippel-Trenaunay 症候群に伴う下肢静脈奇形を血栓源とした肺血栓塞栓症の一例

[1] 山形大学 医学部 医学科、[2] 山形大学医学部　内科学第一講座
○青柳　匠朗[1]、髙畑　　葵[2]、結城　翔太[2]、志鎌　　拓[2]、土屋　隼人[2]、田村　晴俊[2]、
須貝　孝幸[2]、橋本　直明[2]、和根崎真大[2]、大瀧陽一郎[2]、加藤　重彦[2]、有本　貴範[2]、
渡辺　昌文[2]

73　若年発症、濃厚な家族歴、再発歴から先天性血栓性素因の診断に至った静脈血栓塞栓症 (VTE) の２例

[1] 一般財団法人太田綜合病院附属太田西ノ内病院　初期臨床研修医、
[2] 一般財団法人太田綜合病院附属太田西ノ内病院　循環器内科
○星　　茉利[1]、入江　友梨[2]、五十嵐菜央[2]、天海　一明[2]、安藤　卓也[2]、金澤　晃子[2]、
石田　悟朗[2]、神山　美之[2]、八巻　尚洋[2]

74　肝移植適応基準の達成を目的にソタテルセプトを導入し肺血行動態が改善した門脈肺高血圧症の一例

東北大学病院　循環器内科
○岡田　寛正、菊地　順裕、米津　雄飛、則政　　颯、佐藤　　遥、佐藤　大樹、矢尾板信裕、
鈴木　秀明、山本　沙織、後岡広太郎、建部　俊介、安田　　聡

ダイバーシティフォーラム（第 3 会場：4F 401 会議室） 11：10 ～ 12：00

座長：山形大学医学部附属病院　第一内科　病院助教　**齋藤　悠司**
能代厚生医療センター 循環器内科　科長　**梅田　有理**

「自分の『好き！』を世界に示そう ～循環器内科医が心房細動診断支援 AI 医療機器開発やスタートアップをするまでの話～」

演者：国際医療福祉大学医学部　循環器内科学　教授　**田村　雄一**

成人先天性心疾患セミナー（第 4 会場：5F 小研修室） 11：00 ～ 12：00

座長：福島県立医科大学　周産期・小児地域医療支援講座　教授　**桃井　伸緒**

「明日から役立つ 成人先天性心疾患診療のエッセンス ー ACHD 外来開設 17 年の経験からー」

演者：九州大学病院　総合周産期母子医療センター　准教授　**山村健一郎**

心不全療養指導士連携セミナー（第 3 会場：4F 401 会議室） 14：00 ～ 15：00

座長：大原綜合病院　循環器内科　診療顧問　**齋藤　修一**
福島県立医科大学附属病院　看護部　副看護師長　**東雲　紀子**

「心不全再入院予防管理料の新設後の各施設における取り組みと課題の共有」

演者：福島県立医科大学附属病院　**安田　沙織**
仙台厚生病院　**保田　彰**
総合南東北病院　**郡司　真美**
仙台駅東クリニック　**木村　珠美**

モーニングセミナー（第 3 会場：4F 401 会議室） 8：20 ～ 9：00

座長：弘前大学大学院医学研究科　循環器腎臓内科学講座　教授　**富田　泰史**

「SGLT2 阻害薬による『代謝』のリバースリモデリング」

演者：埼玉医科大学総合医療センター　心臓内科　教授　重城健太郎

共催：日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社

モーニングセミナー（第 4 会場：5F 小研修室） 8：20 ～ 9：00

座長：東北医科薬科大学　内科学第一（循環器内科） 教授　**熊谷　浩司**

「朝の 40 分で伝える肥満症と OSAS　～循環器診療を変える 3 つの視点～」

演者：東京女子医科大学大学院医学研究科　総合診療・総合内科学分野　准教授　関口　治樹

共催：日本イーライリリー株式会社 / 田辺ファーマ株式会社

学術セミナーⅠ（第 1 会場：4F 多目的ホール AB）　11：20 ～ 12：00

座長：岡村記念病院　副院長・顧問　**森野　禎浩**

「重症 AS 診療のパラダイムシフト
～無症候のうちに見つけ、症状を待たずにつなぐ時代へ～」

演者：仙台厚生病院　心臓血管センター長 兼 循環器内科　科長　**多田　憲生**

共催：エドワーズライフサイエンス合同会社

学術セミナーⅡ（第 2 会場：3F 企画展示室）　11：20 ～ 12：00

座長：福島県立医科大学　循環器内科学講座　教授　**中里　和彦**

「ステージ A から見つめ直す心不全の新たな治療戦略
～ SGLT2 阻害薬の位置付けも含めて～」

演者：富山大学　学術研究部　医学系内科学（第二）講座　教授　**絹川弘一郎**

共催：アストラゼネカ株式会社

ランチョンセミナー A（第 1 会場：4F 多目的ホール AB）　12：10 ～ 13：00

座長：福島県立医科大学　循環器内科学講座　主任教授　**竹石　恭知**

「当院で経験した ATTR アミロイドーシス症例から学ぶ診療のポイント」

演者：岩手県立中央病院　医療研修部次長兼医療研修科長兼循環器科　医長　**三浦　正暢**

「ATTR 診療の新たなかたち ～血中 TTR 濃度で考える治療～」

演者：慶應義塾大学医学部　循環器内科　専任講師　**遠藤　　仁**

共催：アレクシオンファーマ合同会社

ランチョンセミナー B（第 2 会場：3F 企画展示室）　12：10 ～ 13：00

座長：東北大学大学院医学系研究科　循環器内科学分野　教授　**安田　　聡**

「五苓散が拓く心不全治療の Next Chapter ～その時、歴史は動き始めた～」

演者：国立循環器病研究センター心不全・移植部門心不全部　**夜久　英憲**

共催：株式会社ツムラ

ランチョンセミナー C（第 3 会場：4F 401 会議室）　12：10 ～ 13：00

座長：山形大学医学部　内科第一講座　教授　**渡辺　昌文**

「閉塞性肥大型心筋症診療におけるミオシン阻害薬の位置づけ
～エビデンスと実臨床から考える～」

演者：福島県立医科大学　循環器内科学講座　准教授　**及川　雅啓**

共催：ブリストル・マイヤーズスクイブ株式会社

ランチョンセミナー D（第 4 会場：5F 小研修室）　12：10 ～ 13：00

座長：秋田大学大学院医学系研究科　循環器内科学講座　教授　**渡邊　博之**

「山形県における ATTR-CM 診療」

演者：山形大学医学部　内科第一講座集中治療部　助教　**和根先真大**

「宮城県における ATTR-CM 診療 “ アムヴトラへの期待 ”」

演者：東北大学病院　循環器内科　特任准教授　**後岡広太郎**

共催：Alnylam Japan 株式会社

教育セッション1（第 1 会場：4F 多目的ホール AB） 14：00 ～ 14：45

座長：弘前大学大学院医学研究科　循環器腎臓内科学講座　教授　**富田　泰史**

「心臓画像診断の現在地と未来 －冠動脈 CT から PET/MR まで－」

演者：福島県立医科大学　放射線医学講座　教授　**福島　賢慈**

教育セッション2（第 1 会場：4F 多目的ホール AB） 14：45 ～ 15：30

座長：福島県立医科大学　循環器内科学講座　主任教授　**竹石　恭知**

「SHD カテーテル治療 Update －TAVI・僧帽弁・三尖弁治療の現在地－」

演者：仙台厚生病院　循環器内科　科長　**多田　憲生**

審査会・会議

審査会場（5F　特別会議室）

成人先天性心疾患部会	09：30 ～ 10：00
学生・初期研修医 AWARD 審査会	10：10 ～ 10：30
心肺蘇生法普及委員会	10：40 ～ 11：00
YIA 審査会	11：10 ～ 11：30
支部役員会	11：30 ～ 12：00

第 1 会場（4F　多目的ホール AB）

支部評議会、YIA および 学生初期研修医 AWARD 表彰式	13：20 ～ 13：50

一般社団法人日本循環器学会　支部規程

（総　則）
第１条　この規程は、一般社団法人日本循環器学会（以下「日本循環器学会」という）各地区の支部（以下「各支部」という）の遵守すべき事項を定める。

（事務局）
第２条　各支部の事務局は、日本循環器学会定款施行細則に定める地区に置く。

（目的および事業）
第３条　各支部は日本循環器学会の目的達成のため次の事業を行う。
１）地方会の開催
２）日本循環器学会国際トレーニングセンター（JCS-ITC）としての講習会等の開催
３）日本循環器学会本部からの委託事項の処理
４）その他目的の達成に必要な事業

（会　員）
第４条　各支部の会員は、当該地区に所属する日本循環器学会の正会員および準会員とする。
２．支部名誉会員 / 支部特別会員 / 支部顧問等の設置は各支部役員会で定めることとする。

（社　員）
第５条　社員とは、日本循環器学会定款及び定款施行細則に基づき選出された各支部に所属する社員をいう。

（支部長）
第６条　各支部に支部長１名を置く。
２．支部長は定款に基づき選出された支部所属理事の協議で決定し、支部社員総会において報告する。
３．支部長は支部を統括する。
４．支部長の任期は２年とし、再任を妨げない。

（支部役員）
第７条　各支部に支部役員を若干名置く。
２．支部役員は支部所属理事及び支部長の推薦で選出された会員とし、支部長を除いた支部役員を支部社員総会で承認する。
３．支部役員は、地方会、事業計画･報告、予算･決算、その他支部長の求めに応じて支部運営にあたる。
４．支部役員の任期は２年とし、再任は妨げない。

（支部監事）
第８条　各支部に支部監事を若干名置く。
２．支部監事は支部長が候補者を会員から推薦で選出し、支部社員総会で承認する。
３．支部監事は支部の監査を行い､不正の事実があれば支部社員総会及び日本循環器学会本部に報告する。
４．支部監事の任期は２年とし、連続して就任できる期数は３期までとする。

（支部幹事）
第９条　各支部に支部幹事を若干名置く。
２．支部事務局担当幹事および JCS-ITC 担当幹事の設置は必須とする。
３．支部幹事は支部長が会員から選出する。

4．支部幹事は支部長を補佐し、役員会 / 社員総会において会計報告及び JCS-ITC 業務の報告等を行う。
5．支部幹事の任期は支部長の任期に準じ、再任を妨げない。

（支部評議員）
第 10 条　各支部に支部評議員を置くことができる。
2．支部評議員は会員から選出する。
3．支部評議員は支部業務を補佐する。
4．支部評議員の選出方法 / 任期 / 定年等は各支部役員会で定めることとする。

（地方会会長）
第 11 条　各地方会に会長 1 名を置く。
2．地方会会長は支部役員会の推薦で選出し、支部社員総会において承認する。
3．地方会会長は地方会を主催し、その経理 / 事業内容を支部役員会及び支部社員総会に報告する。
4．地方会会長の任期は、主催地方会にかかる業務が完了するまでとする。

（支部役員会）
第 12 条　支部役員会は、支部役員で構成する。
2．支部役員会は年 1 回以上開催し、主に以下の事項を扱う。
1）事業計画・事業報告及び予算・決算の承認
2）地方会会長の選出
3）支部運営上重要な規則の承認
4）その他本支部の運営に必要な事項の確認（JCS-ITC 報告など）
3．予算もしくは事業計画に大幅な変更が見込まれる場合には臨時支部役員会を開催しなければならない。
4．支部役員会は支部長が招集し議長となる。ただし支部長に事故あるときは他の支部役員が招集する。この場合、議長は支部役員の協議により選出する。
5．支部役員会は過半数が出席しなければ、その議事を決議できない。ただし、当該議事につき予め書面をもって意思を表示したもの、および他の支部役員を代理人として表決を委任したものは出席者とみなす。
6．支部役員会の議事は出席者の多数決をもって決し、可否同数の時は議長の決するところによる。

（支部社員総会）
第 13 条　支部社員総会は、社員で構成する。
2．支部社員総会は年 1 回以上開催し、主に以下の事項を扱う。
1）事業計画・事業報告及び予算・決算の確認
2）決定された支部長の確認
3）支部役員・支部監事・地方会会長の承認または解任
4）支部運営上重要な規則の確認
5）その他本会の運営に必要な事項（JCS-ITC 報告など）
3．支部社員総会は、支部長が招集し、議長となる。ただし支部長に事故あるときは他の支部役員が招集する。この場合、議長は支部役員の互選により選出する。
4．支部社員総会は支部社員の過半数が出席しなければ、その議事を決議できない。ただし、当該議事につき予め書面をもって意思を表示したもの、および他の支部会員を代理人として表決を委任したものは出席者とみなす。
5．支部社員総会の議事は出席者の多数決をもって決し、可否同数の時は議長の決するところによる。

（支部評議員会）
第 14 条　支部評議員会は、支部評議員で構成する。
2．支部評議員会は年 1 回以上開催し、以下の事項の報告を受ける。
1）予算・決算
2）事業計画および事業報告
3）地方会会長及び地方会開催地
4）支部長の選出結果
5）その他本会の運営に必要な事項（JCS-ITC 報告など）
3．支部評議員会は、支部長が招集し、議長となる。ただし支部長に事故あるときは他の支部役員が招集する。この場合、議長は支部役員の協議により選出する。

（支部事務局業務）
第 15 条　支部事務局業務とは、支部役員会、支部社員総会、支部評議員会の運営、各事業の補助等をいう。
2．支部事務局業務は、原則支部年会費収入の範囲内で収支均衡に努めなければならない。
3．支部事務局業務にかかる経費精算の職務権限について、予算内経費精算は、支部事務局担当幹事による確認を必要 (事後確認可) とする。予算枠外使用については、20 万円未満が支部長承認、20 万円以上が支部役員会承認を事前に必要とする。
4．各支部は全事業の会計報告を毎月すみやかに本部事務局に報告することとする。

（地方会）
第 16 条　各支部は地方会を年 1 回以上開催する。
2．地方会に演題を提出する者は原則として会員でなければならない。
3．地方会収支について、原則、収入の範囲内で費用支出を行うこととし、収支均衡に努めなければならない。
4．地方会において新たな試みを実施する場合は、事前に地方会会長と支部長で協議を行うこととする。
5．地方会における参加費等の現金取り扱いについて、不正や過誤が発生しない体制を整えなければならない。
6．地方会の経費精算は、地方会会長もしくは会長が定めた者が内容を確認したうえで実施する。なお全ての精算を原則地方会終了後 2 ヵ月以内に完了させること。

（JCS-ITC 講習会）
第 17 条　各支部は JCS-ITC 講習会を JCS-ITC 担当幹事が計画を取り纏め、開催する。
2．講習会収支について、原則収入の範囲内で費用支出を行うこととし、収支均衡に努めなければならない。
3．JCS-ITC 講習会に関わる経費精算の職務権限について、予算内経費精算は、JCS-ITC 担当幹事による確認を必要 (事後確認可) とする。予算枠外使用については、20 万円未満が支部長承認、20 万円以上が支部役員会承認を事前に必要とする。

附　則
1）本規則は、平成 27 年 2 月 1 日から試行期間とし、平成 28 年 4 月 1 日から完全実施とする。
2）この規程の改廃は日本循環器学会理事会の議決を経なければならない。

支部コンプライアンス・倫理規程

（目　的）

第１条　この規程は、一般社団法人日本循環器学会全支部（以下「支部」という）におけるコンプライアンスに関し基本となる事項を定め、もって健全で適正な学会運営及び社会的信頼の維持に資することを目的とする。

（定　義）

第２条　この規程において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

１）コンプライアンスとは、法令、各支部の諸規則を遵守することをいう。

２）支部役職者とは、支部に所属する支部長・支部役員・支部監事・支部幹事・地方会会長をいう。

３）支部職員とは、支部の事務を担当する職員をいう。

４）コンプライアンス事案とは、支部の構成員にかかわる法令又は定款等の本学会諸規則や支部会則等に 違反、または違反するおそれのある事案をいう。

（支部役職者及び支部職員の責務）

第３条　支部役職者･支部職員は、支部の定める理念および目標を実現するため、それぞれの責任を自覚し、コンプライアンスの重要性を深く認識するとともに、人権を尊重し、高い倫理観を持って行動しなければならない。

２.支部役職者・支部職員は、次に掲げることを理由として、自らのコンプライアンス違反行為の責任をのがれることはできない。

１）規程について正しい知識がなかったこと

２）規程に違反しようとする意思がなかったこと。

３）支部の利益に資する目的で行ったこと

附　則

１）本規則は、平成 27 年 2 月 1 日から試行期間とし、平成 28 年 4 月 1 日から完全実施とする。

２）この規程の改廃は日本循環器学会理事会の議決を経なければならない。

一般社団法人日本循環器学会　東北支部運営内規

平成 28 年　4 月 1 日施行
令和　5 年　6 月 3 日改定
令和　7 年 12 月 6 日改定

（総　則）
第 1 条　この内規は、一般社団法人日本循環器学会支部規程を東北支部（以下「本支部」という。）において運用するために必要な事項を規定し、円滑な学会活動を推進することを目的とする。

（支部事務局）
第 2 条　本支部における支部事務局を支部長が主宰する教室内に設置する。

（支部長・副支部長）
第 3 条　2 年毎に行われる理事選出選挙の後、第 6 条 2 項に沿い支部長を決定するが、支部長の任期開始日は理事就任開始日からとする。
2．支部長は、「支部コンプライアンス・倫理規程」を確認し、その内容を遵守しなければならない。
3．支部長が本支部とは別の支部に異動した場合、支部長として退任となる。
第 4 条　本支部に副支部長 1 名を置く。
2．副支部長は支部所属理事の中から協議で決定し、支部社員総会において報告する。
3．支部長に事故あるとき、または支部長が別支部へ異動したとき、副支部長を新たな支部長とする。この場合の任期は、退任した支部長の任期に準ずる。

（支部役員）
第 5 条　支部役員は、支部規程第 7 条 1 項に沿い、支部所属理事の他、支部長推薦枠として本支部においては、会員である東北地区 7 大学の循環器を担当する内科の教授が就任することとする。その他にも支部役員として必要な人物がいる場合は、支部長が推薦する。
2．任期中において各大学教授の交代があった場合は役員も変更となるが、就任期間は前任者を引継ぐこととする。
3．支部役員は、「支部コンプライアンス・倫理規程」を確認し、その内容を遵守しなければならない。

（支部監事）
第 6 条　支部規程第 8 条 1 項に定める支部監事の定数は、本支部においては 2 名とする。
2．支部規程第 8 条 2 項に定める支部監事の選出について、本支部においては、支部運営から独立性をもった者を、支部長が候補者を会員から選出することとする。なお独立性を鑑み、支部役員、支部幹事との兼務は不可とする。
3．支部監事は、「支部コンプライアンス・倫理規程」を確認し、その内容を遵守しなければならない。

（支部幹事）
第 7 条　支部規程第 9 条に定める支部幹事は、本支部においては支部事務局担当幹事 1 名、JCS-ITC 担当幹事 1 名、その他幹事を若干名とし、支部役員、支部評議員との兼務も可能とする。
2．支部幹事は、「支部コンプライアンス・倫理規程」を確認し、その内容を遵守しなければならない。
3．支部事務局担当幹事ならびに JCS-ITC 担当幹事は、それぞれの業務における月度毎の収支状況をモニタリングし、予算進捗確認を行わなければならない。予算に対し収支悪化の場合は、対策を検討し支部長へ報告すること。また収支改善の場合は、その資金活用方法について検討し支部長へ報告することとする。

4．JCS-ITC 業務担当幹事は、会員かつファカルティーの中から選出することとする。ファカルティーがいない場合は会員かつコースディレクターの中から選出する。
5．支部幹事は、それぞれの業務において投資が必要な場合は、事業計画、予算において明確化し、支部役員会・支部社員総会において発言し、承認を得なければならない。

（支部評議員）
第 8 条　支部規程第 10 条に定める支部評議員は、支部役員 1 名の推薦により選出し、支部役員会及び支部社員総会において承認する。
2．候補者は、支部役員会予定日より 15 日以前に所定の用紙を用いた履歴書、業績書及び支部役員 1 名が署名・捺印した推薦書を支部長へ提出する。
3．支部評議委員会に正当な理由なく 3 回連続して欠席した者、退会した者、東北地区から移動した者は、支部評議員の資格を喪失する。
4．支部評議員の任期は 2 年とし再任は妨げない。
5．支部評議員の辞職は支部役員会及び支部社員総会において承認する。
6．支部評議員の定年は 65 歳とする。3 月 31 日までに（当日を含む）65 歳の誕生日を迎える評議員は、その 3 月 31 日をもって退任とする

（地方会会長）
第 9 条　地方会会長は、「支部コンプライアンス・倫理規程」に定められた内容を遵守しなければならない。
2．地方会会長は、「臨床研究の利益相反に関する共通指針の細則」に定められた様式の利益相反の自己申告書を支部長経由で本会へ提出しなければならない。
3．地方会会長は、地方会開催日程の決定を行う。
4．地方会の主題および演題の選定および採択は、会長が裁量する。
5．地方会実施にあたり、会長の推薦にて会長校事務局長を任命してよい。会長校事務局長は、会長からの指示に基づき、地方会運営を補助することとする。
6．地方会運営にあたる企画会社の選定は、会長一任とするが、企画会社手数料が過多とならないことを事前に確認しなければならない。
7．地方会開催にあたり収入の受入れ、費用の精算の為、会長名において専用口座を開設しなければならない。口座開設と同時にキャッシュカードを作成する場合は、会長から使用者・保管者を指名し、それ以外のものが利用出来ない体制を構築しなければならない。
8．お届け印、通帳は会長または会長が指名した者が保管する。保管にあたっては必ず施錠し、本人のみが解錠出来る体制としなければならない。

（支部名誉会員）
第 10 条　支部規程第 4 条 2 項に定める支部名誉会員は、東北地区単独の支部社員総会において選任する
2．支部名誉会員の被推薦資格は、支部社員総会開催日において年齢 65 歳以上（当日に 65 歳を迎える者を含む）の東北支部所属の会員であり、支部評議員を 3 期以上務めたものとする。
3．支部名誉会員は、支部評議員会に出席することができる。また、支部社員総会にも出席することができるが議決権は有しない。
4．支部名誉会員は、支部役員、支部幹事の兼務を不可とする。
5．支部名誉会員は、永年資格とする。
6．支部名誉会員の被推薦資格は、3 月 31 日までに（当日を含む）に 65 歳の誕生日を迎える東北支部所属の会員であり、支部評議員を 12 年以上務めたものとする。

（支部社員総会、支部評議員会）
第 11 条　支部規程第 13 条に定める支部社員総会、支部規程第 14 条の支部評議員会は、同時開催することとする。

（支部事務局業務）

第 12 条　支部規程第 15 条における支部事務局業務は、事務局担当幹事を補佐し、円滑に業務を遂行することを目的として、本業務に従事する人員を支部役員会の承認のもと採用しても構わない。雇用条件の変更がある場合は、支部役員会での承認を必要とする。

（地方会）

第 13 条　支部規程第 16 条 1 項に定める地方会について、本支部は原則として毎年 2 回地方会を開催する。

2.　地方会の名称は、第○○回日本循環器学会東北地方会とする。

地方会運営に関するその他の事項は地方会運営要領に定めることとする。

（JCS-ITC 講習会）

第 14 条　支部規程第 17 条 1 項に定める JCS-ITC 講習会について、本支部は JCS-ITC 業務担当幹事との協議により支部事務局において事務業務（受講者への連絡、受講料受付・謝金や立替金の精算　等）を行う。なお、これらの事務業務について、円滑に業務を遂行することを目的として、支部役員会の承認のもと、外部業者へ業務委託を行っても構わない。委託範囲・経済条件の変更がある場合は、支部役員会での承認を必要とする。

2.　JCS-ITC 講習会の事務業務については JCS-ITC 講習会事務要領に定めることとする。

附　則

1）この内規は、平成 27 年 2 月 1 日から試行期間とし、平成 28 年 4 月 1 日から完全実施とする。

2）この内規改正は、支部役員会において審議し、支部社員総会にて決定する。

一般社団法人日本循環器学会　東北支部　地方会運営要領

平成 28 年　4 月 1 日施行
令和　5 年 12 月 2 日改定
令和　7 年 12 月 6 日改定

この地方会運営要領は、一般社団法人日本循環器学会東北支部（以下「本支部」という）において地方会を円滑に運営するために必要な事項を規定する。

（広　報）

1．地方会会長は、地方会開催日程、会場、地方会会長事務局の担当者が決まり次第、本支部へ報告する。本支部は「地方会開催連絡票」を本会へ提出するとともに、本支部ホームページに情報を掲載することとする。
2．本支部地方会に関する事項は、本会の会告及びその他の手段により会員に広報する。

（会　計）

3．地方会会長、または、支部事務局担当幹事は、開催前年度の支部役員会･支部社員総会に出席して、本部へ提出予定の地方会予算及び事業計画について事前に承認を得る。また、支部評議員会にて報告を行う。ただし、地方会会長の出席がかなわない場合は代理を立てることができる
4．地方会参加費は、正会員 3,000 円、コメディカル 1,000 円、初期研修医無料、学部学生無料とする。参加費を変更する場合は支部役員会での承認を必要とする。
5．地方会での寄付の受入は、「寄付金取扱規程」に基づき対応する。なお寄付金受入先について、本会が禁煙宣言を行っている学会であることを鑑み、本会学術集会同様、日本たばこ産業・鳥居薬品からの寄付受入は禁ずる。
6．地方会において市民公開講座及び託児室設置を実施する場合は、本支部よりその経費を補助する。ただし、上限を１００万円とする。補助金は、経費内訳及び証憑書類の提出を持って交付するものとする。
7．地方会において男女共同参画セミナーを実施する場合は、本支部より講師招請経費を補助する。ただし上限を２０万円とする。補助金は、経費内訳及び証憑書類の提出を持って交付するものとする。
8．地方会開催にあたり開設する金融機関の口座名義は、「一般社団法人日本循環器学会　第○○回東北地方会　会長　○○○○」とする。
9．地方会当日の現金（参加費）の取扱いについて、不正や過誤が発生しないよう関係するスタッフの教育を十分行わなければならない。
10．地方会当日に徴収した参加費について、当日中に口座入金するか金庫に保管することとする。地方会終了後、翌営業日には口座入金することとする。
11．教育講演の演者および座長は、原則として東北支部所属会員を充て、その謝金および交通費は支給しないものとする。なお、これ以外の対応を行う場合は、支部役員会の承認を要する。
12．地方会で支払われた講演謝金及び会長校スタッフ臨時雇用費の源泉所得税は、地方会会長事務局において納付対応する。なお東北支部事務局から参加したスタッフ臨時雇用費は、東北支部事務局において納付対応する。
13．地方会経費の精算は、リスク管理の観点から現金での精算を禁じ、原則請求書対応とする。請求書対応が難しい場合は、企画会社・スタッフによる立替精算を行い、後日レシートや領収書をもとに精算する。
14．地方会終了後、余剰金が発生した場合、支部管轄の地方会繰越金専用口座に振り込むこととし、地方会開催に関係無い備品等の購入に充ててはならない。その後、口座は解約する。

15. 地方会の経費精算は、原則地方会終了後２か月以内に完了させ、入出金に係るすべての証憑を本支部に提出しなければならない。外部の団体から助成金・補助金を受けた場合は、交付決定通知書の控えも提出すること。
16. 地方会会長は、開催次年度の支部役員会・支部社員総会、支部評議員会に出席して、地方会決算及び事業内容の報告を行う。ただし、地方会会長の出席がかなわない場合は代理を立てることができる。

（会議）

17. 支部役員会を地方会当日に開催する。議案書及び議事録は本支部事務局が作成することとする。地方会会長事務局は、本支部の求めに応じて当日の受付及び配布資料の準備等を行う。
18. 支部社員総会、支部評議員会を地方会当日に開催する。議案書及び議事録は本支部が作成することとする。地方会会長事務局は、本支部の求めに応じて当日の受付及び配布資料の準備等を行う。
19. 地方会における華美な懇親会の開催を禁じる。

（演題募集）

20. 地方会会長は、演題募集スケジュールを決定し、「地方会演題募集ホームページ利用申請書」を本会及び本支部へ提出する。演題募集の開始日・締切日は前後に祝日のない火曜日から木曜日で設定すること。申請書の提出期限はオンライン演題募集システム利用開始の２カ月前とする。
21. 本支部は、オンライン演題募集システムの管理者用 ID 及びパスワードを地方会会長事務局へ通知する。なお、パスワードについては、本支部が毎年度更新することとし、変更後のパスワードを本会に通知する。
22. 募集締切日延長等の連絡は、混乱を避けるために必ず本会経由で行うこととする。

（専門医単位登録）

23. 地方会会長は、詳細が決まり次第「教育セッション開催届」ならびに「DVD セッション開催届」（DVD セッションを開催する場合に限る）を本会及び本支部へ提出しなければならない。
24. 地方会会長事務局は、地方会時に専門医単位登録（地方会参加５単位、教育セッション参加３単位、ＤＶＤセッション参加２単位）を行うこととするが、本会から明示された「単位登録の運営方法について」に沿って対応しなければならない。
25. 教育セッション及びＤＶＤセッションの専門医単位登録は、不正やミスを防止するため、時間を限定して行わなければならない。（例：セッション開始 1 時間（又は 30 分）前から終了 30 分前）
26. ＤＶＤセッションについて、同じ内容の講演会を学術集会及びインターネットで聴講したことのある会員は、単位加算ができない。地方会会長は事前にプログラム等でその旨を告知し、当日も会場に掲示すること。

（プログラム・抄録）

27. プログラムは、本会会告（偶数月 25 日発行）への抱き合わせで本支部会員へ発送することができる。希望する場合は、「地方会プログラム冊子抱合発送申請書」を本会及び本支部へ提出すること。プログラム以外の発送物（チラシ等）があれば、その内容を申請書に明記すること。申請書の提出期限は、会告発行 1 か月前とする。
28. 抄録については、冊子発行を行わず本会ホームページに掲載する。本会ホームページへの掲載にあたり、抄録著者による校正は行わない。訂正等がある場合には、地方会終了後速やかに本会へ連絡することとする。なお、地方会会長事務局は、その旨をプログラムに記載し会員に告知すること。
29. プログラム完成後、本支部へ２部、本会へ５部を送付すること。
30. 地方会会長は、抄録データを本会に提出しなければならない。当日発表されなかった演題は抄録データとして扱わない。

（演題発表）

31. 地方会演者は、発表前のスライドにおいて定められた様式「利益相反の自己申告書」を提示する必要がある。

32. 日本循環器学会東北地方会 Young Investigator's Award について

1）当支部は、東北地区の循環器病学の発展と優秀な若手循環器専門医の育成を目的として、「日本循環器学会東北地方会 Young Investigator's Award」（東北地方会 YIA「症例発表部門」「研究発表部門」）を設ける。

2）東北地方会 YIA の応募資格、応募方法、演題応募要領は以下に記載する。ただし、地方会主催の当番校会長の裁定をもって変更は許可されるものとする。

① 応募資格

日本循環器学会員であり、各地方会開催日において満 35 歳以下または卒後１０年以下の方。東北地方会において過去に YIA を受賞した者は、最優秀賞・優秀賞を問わず、同じ部門への再応募はできない。他部門への申請は可とする。

② 対象演題

日本循環器学会東北地方会で行われた循環器学に関する臨床・基礎研究、且つ、症例報告を受け付ける。発表時点で印刷公表されていない演題内容を対象とする。ただし、応募者は筆頭演者でありその内容に中心的役割を果たしたものであることを必要とする。他の学会賞への応募と重複しないこととし､各部門毎に１施設２題（ただし１科１演題）までの応募とする。本 YIA は症例発表部門と研究発表部門それぞれで選考と表彰を行う。

③ 選考方法

地方会演題募集時に YIA 応募希望を募り、地方会開催時には希望演題のみを対象とする YIA セッションを設ける。選考委員は本セッションに参加し、引き続き開催される YIA 審査委員会において厳重な審査を行う。症例発表部門と研究発表部門それぞれで最優秀賞１名および優秀賞若干名選定する。なお、希望演題数が各部門５題を超えた場合は、予め選考委員による第一次審査を行う。

④ 会長奨励賞

YIA 希望演題のうち、一般病院からの演題を対象として、大会長は事前に会長奨励賞候補の順位を決定する｡YIA 最優秀賞または優秀賞受賞演題については会長奨励賞の選考対象外とし、候補の中で最上位の演題を会長奨励賞とする。ただし、該当がない場合は授与しない。

⑤ 応募方法

一般演題応募と同様に日本循環器学会ホームページより登録。Young Investigator's Award 応募希望者は応募資格を確認のうえ、「YIA に応募する」にチェックを入れ、症例発表部門と研究発表部門のどちらに応募するかを予め明記する。

⑥ 賞

部門毎に最優秀賞１名（賞金 10 万円）および優秀賞若干名（賞金５万円）と表彰状。同点の場合は要検討とする。会長奨励賞は１名（賞金５万円と表彰状）。

⑦ 締切り

一般演題締切日と同日とする。一次審査後採択されなかった場合は、自動的に一般演題に採択される。

3）YIA 選考委員会は大会長を選考委員長として、各県大学の循環器内科教授６名と大会長が選出する６名の選考委員の計 12 名で構成される。ただし、宮城県に於いては東北大学と東北医科薬科大学の教授が交代で務めることとする。選考委員に代理を置く場合は、教授選考員の場合は教室の准教授または講師に委託し、その他の６名の選考委員については大会長が再度選出する。

33. 日本循環器学会東北地方会　学生・初期研修医 AWARD について

1）当支部は、東北地区の循環器病学の発展と優秀な若手循環器専門医の育成を目的として、「日本循環器学会東北地方会 学生・初期研修医 AWARD」を設ける。

2）東北地方会　学生･初期研修医 AWARD の応募資格、応募方法、演題応募要領は以下に記載する。

ただし、地方会主催の当番校会長の裁定をもって変更は許可されるものとする。

① 応募資格

各地方会開催日において学生・初期研修医の方（日循会員の有無は不問）。

東北地方会において過去に学生・初期研修医 AWARD を受賞した者は、再応募はできない。

② 対象演題

筆頭演者である応募者が担当医として治療を行った症例報告もしくは重要な役割を果たした研究で、演題募集締切日までに他の学会で未発表かつ印刷公表されていない演題内容を対象とする。他の学会賞への応募と重複しないこととし、１施設２題（ただし１科１演題）までの応募とする。

③ 選考方法

地方会演題募集時に学生・初期研修医 AWARD 応募希望を募り、地方会開催時には希望演題のみを対象とするセッションを設ける。選考委員は本セッションに参加し、引き続き開催される審査委員会において厳重な審査を行う。なお、希望演題数が５題を超えた場合は、予め選考委員による第一次審査を行う。

④ 応募方法

一般演題応募と同様に日本循環器学会ホームページより登録。学生・初期研修医 AWARD 応募希望者は応募資格を確認のうえ、「学生・初期研修医 AWARD に応募する」にチェックを入れ応募する。

⑤ 賞

最優秀賞１名（賞金 10 万円）および優秀賞若干名（賞金５万円）と表彰状。同点の場合は要検討とする。

⑥ 締切り

一般演題締切日と同日とする。一次審査後採択されなかった場合は、自動的に一般演題に採択される。

3）研修医 AWARD 選考委員会は会長校の准教授（不在の場合は大会長が指名）を選考委員長として、各県大学の循環器内科准教授／講師／助教より６名と、大会長が選出する６名の選考委員（循環器専門医研修施設より選出）の計 12 名で構成される。ただし、宮城県に於いては東北大学と東北医科薬科大学の准教授が交代で務めることとする。

（その他）

34. 会員への印刷物送付等の必要が生じた場合、本会へ「会員名簿・あて名作成依頼書」を提出して会員名簿及び宛名ラベルを請求することができる。会員情報のデータでの受け取りは原則不可とするが、例外的に申請する場合は、誓約書に会長の署名及び捺印が必要となる。

35. 地方会開催校については、公平を期すため各県で順番に開催する。なお、その順番等の変更については、支部役員会にて決定する。

附　則

1）この要領は、平成 27 年２月１日から試行期間とし、平成 28 年４月１日から完全実施とする。この要領改正は、支部長の判断に基づき、支部事務局にて変更して良い。なお、変更時は、支部役員会での追認が必要となる。

一般社団法人日本循環器学会　東北支部 JCS-ITC 講習会事務要領

この事務要領は、一般社団法人日本循環器学会東北支部事務局において JCS-ITC 事務業務（受講料受付・謝金や立替金の精算　等）を行うために必要な事項を規定する。

日本循環器学会は AHA(アメリカ心臓協会) と契約し、心肺蘇生法の教育を行う JCS-ITC(国際トレーニングセンター) を開設している。循環器専門医は心停止や心停止前後での蘇生や心拍再開後の集中治療を必要としていることから、AHA ACLS(二次救命救急措置) の資格取得を受験の条件としている。

また、医療従事者や一般市民向けのコースも開催しており、地域の救命率向上を目指していることから支部にてコース運営を行っており、それに付随する事務業務も支部事務局にて行っている。

※支部運営内規 第６条３にて定められる JCS-ITC 業務担当幹事はファカルティから選出される。

ファカルティは各コースの運営統括責任者であり、新たなインストラクターを教育する立場である。

1. 年４回のインストラクター一覧更新時に、本会事務局より受領したインストラクター一覧を支部長ならびに幹事に提出すること。
2. コース開催日程は、支部ホームページに掲載することとする。
3. コース募集期間中、コースディレクター（以下、CD と略す）と連携を取り、受講者からの問い合わせ対応を行うこと。
4. 下記内容についての受講者への連絡を行うこと。
   採択通知、追受講者の代理登録（CD より指示があった場合)、会場変更、コース中止
5. 講習会管理システムから受講者を確認し、受講者からの受講料入金確認を行うこと。規定日までに入金が確認できない場合には、入金の督促を行うこと。
6. 受講者より受講料領収書の発行依頼があった場合の発行手続きを行うこと。
7. 支部担当者が交代する場合には業務内容を明確の上、後任者へ引継ぎを行い、業務に支障が生じないようにすること。また支部担当者が急病等で業務を行えない場合は、事務局担当幹事より JCS-ITC 業務幹事に速やかに連絡をし、JCS-ITC 業務幹事と支部長において今後の対応を検討する、こと。
8. 業務管理を明確化することを目的として、JCS-ITC 業務専用の口座を開設してよい。
9. 専用口座は、通帳管理者・印鑑管理者・キャッシュカード使用者（作成している場合のみ) を明確にし、一覧にして支部長へ提出しなければならない。(一覧に変更が生じた場合は随時、見直しを行い更新の上、提出する。)
10. 専用口座の通帳、印鑑は、使用者が施錠出来る場所に必ず保管しなければならない。また、キャッシュカード、パスワードについては使用者が変更となる度に変更しなければならない。
11. コース開催時にコースディレクター等が昼食代等の立替精算をした場合、必ず領収書 (レシート可) を入手し、何を購入し、何に利用したのか、誰が立替えしたのか、分かるように領収書に記載 (メモ書き可) の上、支部事務局へ提出すること。なおコース運営が参加者の受講料から成り立っていることを鑑み、不必要な経費支出は行ってはならない。
12. コース終了後、コースディレクターは参加インストラクター・タスクと各自立替えしたコース開催地までの交通費について、支部事務局へ報告しなければならない。支部事務局はコースディレクターからの報告に基づき、インストラクター・タスク一覧を作成する。
13. 各コースディレクターがコースに必要な資金を前に仮払金として引出して使用する場合は、予め仮払金申請書を作成し、JCS-ITC 業務担当幹事のメール承認を要する。
    なお、JCS-ITC 業務担当幹事がコースディレクターとなる場合は、支部長のメール承認を要する。
14. 経費精算において、振込対応では無く、上記の仮払金を活用し現金にて謝金精算や立替精算を行う場合は、必ず受領者から支部宛ての領収書を頂き、証憑として支部事務局へ提出しなければならない。

15. 支部事務局は、インストラクター・タスク一覧、提出された旅費申請書、領収書等に基づき、謝金 (交通費・宿泊費含む)・立替金の精算を行う。また謝金源泉税分の納税を行う。(謝金金額については本会、救急医療委員会において定められたとおりとする。また旅費申請書、領収書等の証憑が無いものの精算は出来ない。)
16. 支部事務局は、収入・経費を取纏め (漏れが無いこと、経費使用理由等が明確であること等を再確認) の上、本部事務局へ提出し会計ソフトへの入力を依頼する。
17. CS-ITC 講習会運営専用口座で余剰金が 1000 万円を超えた場合、支部の JCS-ITC 講習会専用口座に資金を移行する。

附　則

・この要領は、平成 27 年 2 月 1 日から試行期間とし、平成 28 年 4 月 1 日から完全実施とする。
・この要領改正は、支部役員会での決定を必要とする。

日本循環器学会東北地方会 Young Investigator's Award 会則

平成 28 年 4 月 1 日施行
平成 30 年 6 月 2 日改定

1. 日本循環器学会東北支部は、東北地区の循環器病学の発展と優秀な若手循環器専門医の育成を目的として、「日本循環器学会東北地方会 Young Investigator's Award」（東北地方会 YIA）を設ける。

2. 本会則は平成２１年２月１４日に開催される第１４７回東北地方会から有効とし、本会則の変更は総会で審議・決定される。

3. 東北地方会 YIA の応募資格、応募方法は演題応募要領に記載するが、地方会主催の当番校会長の裁定をもって変更は許可されるものとする。

4. YIA 選考委員会は大会長を選考委員長として、各県大学の循環器内科教授 6 名と大会長が選出する 6 名の選考委員の計 12 名で構成される。ただし、宮城県に於いては東北大学と東北医科薬科大学の教授が交代で務めることとする。選考委員に代理を置く場合は、教授選考員の場合は教室の准教授または講師に委託し、その他の 6 名の選考委員については大会長が再度選出する。

日本循環器学会東北地方会 Young Investigator's Award（東北地方会 YIA）

演題応募要領

趣　旨

日本循環器学会東北支部は、東北地区の循環器病学の発展と優秀な若手循環器専門医の育成を目的として、「日本循環器学会東北地方会 Young Investigator's Award」（東北地方会 YIA）を設け、毎回の東北地方会において、優秀演題の表彰を行う。

応募資格

日本循環器学会員であり、各地方会開催日において満 35 歳以下または卒後１０年以下の方。
東北地方会において過去に YIA を受賞した者は、最優秀賞・優秀賞を問わず、同じ部門への再応募はできない。他部門への申請は可とする。

対象演題

日本循環器学会東北地方会で行われた循環器学に関する臨床・基礎研究、且つ、症例報告を受け付ける。発表時点で印刷公表されていない演題内容を対象とする。ただし、応募者は筆頭演者でありその内容に中心的役割を果たしたものであることを必要とする。他の学会賞への応募と重複しないこととし、各部門毎に１施設２題（ただし１科１演題）までの応募とする。本 YIA は症例発表部門と研究発表部門それぞれで選考と表彰を行う。

選考方法

地方会演題募集時に YIA 応募希望を募り、地方会開催時には希望演題のみを対象とする YIA セッションを設ける。選考委員は本セッションに参加し、引き続き開催される YIA 審査委員会において厳重な審査を行う。症例発表部門と研究発表部門それぞれで最優秀賞１名および優秀賞若干名選定する。なお、希望演題数が各部門５題を超えた場合は、予め選考委員による第一次審査を行う。

会長奨励賞

YIA 希望演題のうち、一般病院からの演題を対象として、大会長は事前に会長奨励賞候補の順位を決定する。YIA 最優秀賞または優秀賞受賞演題については会長奨励賞の選考対象外とし、候補の中で最上位の演題を会長奨励賞とする。ただし、該当がない場合は授与しない。

応募方法

一般演題応募と同様に日本循環器学会ホームページより登録。Young Investigator's Award 応募希望者は応募資格を確認のうえ、「YIA に応募する」にチェックを入れ、症例発表部門と研究発表部門のどちらに応募するかを予め明記する。

賞

部門毎に最優秀賞１名（賞金 10 万円）および優秀賞若干名（賞金５万円）と表彰状。同点の場合は要検討とする。
会長奨励賞は１名（賞金５万円と表彰状）。

締　切

一般演題締切日と同日とする。一次審査後採択されなかった場合は、自動的に一般演題に採択される。

日本循環器学会東北地方会　学生・初期研修医 AWARD 会則

2019 年 12 月 1 日施行
2021 年　6 月 5 日改定
2025 年 12 月 6 日改定

1. 日本循環器学会東北支部は、東北地区の循環器病学の発展と優秀な研修医の育成を目的として、「日本循環器学会東北地方会学生・初期研修医 AWARD」を設ける。

2. 本会則は 2019 年 6 月 1 日に開催される第 168 回東北地方会から有効とし、本会則の変更は総会で審議・決定される。

3. 東北地方会学生・初期研修医 AWARD の応募資格、応募方法は演題応募要領に記載するが、地方会主催の当番校会長の裁定をもって変更は許可されるものとする。

4. 研修医 AWARD 選考委員会は会長校の准教授（不在の場合は大会長が指名）を選考委員長として、各県大学の循環器内科准教授／講師／助教より 6 名と、大会長が選出する 6 名の選考委員（循環器専門医研修施設より選出）の計 12 名で構成される。ただし、宮城県に於いては東北大学と東北医科薬科大学の准教授が交代で務めることとする。

日本循環器学会東北地方会　学生・初期研修医 AWARD

演題応募要領

趣　　旨

日本循環器学会東北支部は、東北地区の循環器病学の発展と優秀な若手循環器専門医の育成を目的として、「日本循環器学会東北地方会 学生・初期研修医 AWARD」を設け、毎回の東北地方会において、優秀演題の表彰を行う。

応募資格

各地方会開催日において学生・初期研修医の方（日循会員の有無は不問）。
東北地方会において過去に学生・初期研修医 AWARD を受賞した者は、再応募はできない。

対象演題

筆頭演者である応募者が担当医として治療を行った症例報告もしくは重要な役割を果たした研究で、演題募集締切日までに他の学会で未発表かつ印刷公表されていない演題内容を対象とする。他の学会賞への応募と重複しないこととし、１施設２題（ただし１科１演題）までの応募とする。

選考方法

地方会演題募集時に学生・初期研修医 AWARD 応募希望を募り、地方会開催時には希望演題のみを対象とするセッションを設ける。選考委員は本セッションに参加し、引き続き開催される審査委員会において厳重な審査を行う。なお、希望演題数が５題を超えた場合は、予め選考委員による第一次審査を行う。

応募方法

一般演題応募と同様に日本循環器学会ホームページより登録。学生・初期研修医 AWARD 応募希望者は応募資格を確認のうえ、「学生・初期研修医 AWARD に応募する」にチェックを入れ応募する。

賞

最優秀賞１名（賞金10万円）および優秀賞若干名（賞金５万円）と表彰状。同点の場合は要検討とする。

締　　切

一般演題締切日と同日とする。
一次審査後採択されなかった場合は、自動的に一般演題に採択される。

第 183 回日本循環器学会東北地方会 YIA 審査委員

（敬称略）

青　　森

弘前大学大学院医学研究科　循環器腎臓内科学講座	富田　泰史
つがる総合病院　循環器・呼吸器・腎臓内科	阿部　直樹

岩　　手

岩手医科大学　内科学講座循環器内科学分野	石田　　大
岩手県立二戸病院　循環器内科	西山　　理

秋　　田

秋田大学大学院医学系研究科　循環器内科学講座	渡邊　博之
いいの内科クリニック	飯野　健二

山　　形

山形大学医学部　内科学第一講座	渡辺　昌文
山形県立中央病院　循環器内科	福井　昭男

宮　　城

東北大学大学院医学系研究科　循環器内科学分野	安田　　聡
仙台オープン病院　循環器内科	浪打　成人

福　　島

福島県立医科大学医学部　循環器内科学講座	竹石　恭知
福島赤十字病院　循環器内科	大和田尊之

第183回日本循環器学会東北地方会　学生・初期研修医AWARD審査委員

（敬称略）

青　　森

弘前大学大学院医学研究科　循環器腎臓内科学講座　佐々木真吾

青森県立中央病院　循環器内科　櫛引　　基

岩　　手

岩手医科大学　医学教育学講座地域医療学分野　伊藤　智範

岩手県立胆沢病院　循環器内科　八木　卓也

秋　　田

秋田大学大学院医学系研究科　循環器内科学講座　寺田　　健

市立秋田総合病院　循環器内科　藤原　敏弥

山　　形

山形大学医学部　内科学第一講座　有本　貴範

米沢市立病院　循環器内科　上北　洋徳

宮　　城

東北大学大学院医学系研究科　循環器内科学分野　神戸　茂雄

仙台市立病院　循環器内科　八木　哲夫

福　　島

福島県立医科大学医学部　循環器内科学講座　及川　雅啓

太田西ノ内病院　循環器内科　八巻　尚洋

日本循環器学会東北支部役員（令和８年12月現在）

支部長	富田　泰史（弘前大学）			
副支部長	安田　　聡（東北大学）			
理事	富田　泰史（弘前大学）			
	安田　　聡（東北大学）			
支部役員	竹石　恭知（福島県立医科大学）		及川　雅啓（福島県立医科大学）	
	森野　禎浩（岩手医科大学）		伊藤　智範（岩手医科大学）	
	熊谷亜希子（岩手医科大学）		富田　泰史（弘前大学）	
	佐々木真吾（弘前大学）		豊野　学朋（秋田大学）	
	渡邊　博之（秋田大学）		齋木　佳克（東北大学）	
	高橋　　潤（東北大学）		中野　　誠（東北大学）	
	安田　　聡（東北大学）		熊谷　浩司（東北医科薬科大学）	
	富岡　智子（みやぎ県南中核病院）		内田　徹郎（山形大学）	
	渡辺　昌文（山形大学）			
名誉特別会員	伊藤　　宏	白土　邦男	平　　則夫	中村　元行
	丸山　幸夫	久保田　功	下川　宏明	小丸　達也
名誉支部員	青木　孝直	芦川　紘一	阿部　芳久	池田こずえ
	池田　精宏	石出　信正	石橋　敏幸	伊藤　貞嘉
	猪岡　英二	今井　　潤	大和田憲司	岡林　　均
	金谷　　透	小熊　正樹	長内　智宏	小野　幸彦
	加賀谷　豊	門脇　　謙	金澤　正晴	金塚　　完
	上月　正博	木島　幹博	小岩　喜郎	後藤　敏和
	小林　政雄	小松　　隆	齋藤　公男	齋藤　修一
	齊藤　　崇	齋藤　富善	佐々木　弥	貞弘　光章
	佐藤　昇一	佐藤　匡也	杉　　正文	鈴木　　泰
	瀬川　郁夫	高松　　滋	武田　寛人	立木　　楷
	田巻　健治	田代　　敦	田村　芳一	野崎　英二
	花田　裕之	福田　幾夫	藤野　安弘	堀内　久徳
	前原　和平	松井　幹之	三国谷　淳	宮脇　　洋
	室井　秀一	元村　　成	盛　　英機	保嶋　　実
	柳澤　輝行	山家　智之	山本　文雄	横山　　斉
	渡辺　　毅			

支部評議員　各県ごと五十音順、○印は社員（旧：全国評議員）

青森	阿部　直樹	木村　正臣	櫛引　　基	○佐々木真吾
	齋藤　　新	大徳　和之	○富田　泰史	萩井　譲士
	松井　宏光	皆川　正仁	横田　貴志	横山　公章
岩手	石田　　大	○伊藤　智範	遠藤　秀晃	大和田真玄
	木村　琢巳	金　　一	○熊谷亜希子	肥田　頼彦
	高橋　智弘	中村　明浩	西山　　理	房崎　哲也
	三浦　正暢	○森野　禎浩	八木　卓也	
秋田	飯野　健二	小坂　俊光	阪本　亮平	佐藤　輝紀
	佐藤　　誠	佐藤　和奏	鈴木　智人	関　　勝仁
	武田　　智	寺田　　健	○豊野　学朋	中嶋　博之
	長谷川仁志	藤原　敏弥	堀口　　聡	○渡邊　博之
山形	有本　貴範	池野栄一郎	上北　洋徳	○内田　徹郎
	佐藤　　匡	宍戸　哲郎	菅原　重生	須藤　直行
	高橋　　大	新関　武史	西山　悟史	廣野　　摂
	福井　昭男	宮本　卓也	渡邉　　哲	○渡辺　昌文
宮城	伊藤　健太	岩渕　　薫	大原　貴裕	川本　俊輔
	菊地　　翼	○熊谷　浩司	○齋木　佳克	西條　芳文
	篠崎　　毅	白戸　　崇	○髙橋　　潤	建部　俊介
	○富岡　智子	○中野　　誠	浪打　成人	後岡広太郎
	羽尾　清貴	矢尾板信裕	○安田　　聡	山本　沙織
福島	石田　隆史	今坂　堅一	泉田　次郎	○及川　雅啓
	大和田尊之	金城　貴士	國井　浩行	小林　　淳
	佐藤　崇匡	清水　竹史	杉本　浩一	鈴木　　聡
	○竹石　恭知	中里　和彦	福島　賢慈	三阪　智史
	水上　裕行	八巻　尚洋	山田　慎哉	義久　精臣

支部監事	花田　裕之　　小丸　達也
支部幹事	支部事務局担当幹事：横山　公章（弘前大学）
	JCS-ITC 講習会担当幹事：宮本　卓也（山形県立新庄病院）

日本循環器学会東北支部
各種委員会　委員名簿（令和 8 年 12 月現在）

＊委員長

ダイバーシティ推進委員（旧 男女共同参画委員）

相馬　宇伸（青森）	對馬　迪子（青森）	室伏　明子（岩手）	登坂　憲吾（岩手）
鵜沼　真由（秋田）	梅田　有理（秋田）	渡部　　賢（山形）	＊齋藤　悠司（山形）
山本　沙織（宮城）	佐藤　　遥（宮城）	石橋　信幸（福島）	菅原由紀子（福島）

オブザーバー

有本　貴範（山形）	富岡　智子（宮城）		

心肺蘇生法普及委員

＊富田　泰史（青森）	齋藤　　新（青森）	鈴木　智人（秋田）	深堀　耕平（秋田）
佐藤　　慎（岩手）	登坂　憲吾（岩手）	宮本　卓也（山形）	須貝　孝幸（山形）
圓谷　隆治（宮城）	羽尾　清貴（宮城）	水上　浩行（福島）	佐藤　　悠（福島）

成人先天性心疾患部会委員

大徳　和之（青森）	三浦　文武（青森）	妹尾麻衣子（青森）	高木　大地（秋田）
豊野　学朋（秋田）	寺田　　健（秋田）	小泉　淳一（岩手）	齋木　宏文（岩手）
上田　寛修（岩手）	水本　雅弘（山形）	鈴木　康太（山形）	土屋　隼人（山形）
＊齋木　佳克（宮城）	松尾　諭志（宮城）	多田　憲生（宮城）	建部　俊介（宮城）
若松　大樹（福島）	桃井　伸緒（福島）	及川　雅啓（福島）	